

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	小中学生と乳幼児との交流	部課名 担当者名	子育て支援部 児童青少年課 久松	課長名 内線	根本 3835
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（25年度）	小中学生と乳幼児との交流事業費（01-05-01）				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	○ 昭和 ● 平成 18 年度	根拠	なし		
終期設定	○ 有 ● 無 年度	法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価 事業体系	分野	子育て教育都市〔Ⅱ〕			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成〔04〕			
	施策	体験学習等の推進〔04-03〕			
目的	小中学生が乳幼児とのふれあいを通じて、子育ての楽しさや生命の尊さ等を体験し、子育てに希望のもてる大人へと成長できるよう、乳幼児と、小中学校生徒との交流事業を実施する。				
対象者等	ひろば館やふれあい館で実施している「幼児タイム」に参加している乳幼児と、小中学校の児童生徒				
内容	・各ひろば館で、夏休み等を利用し、館の幼児タイム参加の親子と近隣の小中学校へ呼びかけ、参加者を集めて小中学生と乳幼児の交流を図る。				
経過	16年度に次世代育成支援行動計画の中で、次世代育成について、ひろば館やふれあい館で支援することのできる事業を検討し、新生プランに新規事業として組み入れ、平成17年度は尾久ひろば館で試行。 18年度から南千住・花の木・町屋・尾久・西日暮里の各ひろば館で実施。 20年度から南千住・花の木・町屋・尾久の各ひろば館で実施。・西日暮里（20年度廃止） 24年度から花の木・熊野前・西日暮里二丁目の各ひろば館で実施。南千住・町屋・尾久（24年度廃止）				
必要性	核家族化、少子化が進む中で、小中学生と乳幼児が交流し、子育ての楽しさや生命の尊さを体験することは、子育てに希望を持てる大人へ成長するうえで必要である。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員） 夏休みを中心に実施する ・保護者には交流の主旨を説明し協力してもらいながら、保護者・小中学生間の交流を図る。 ・具体的には一緒におもちゃで遊んだり、保健所とのタイアップ事業があれば計測の手伝いをしたり、受付時に母親を手伝い赤ちゃんを抱っこしたりあやしたりする。 ・紙芝居などの発表にも関わりをもてもらう。				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算額		1,269	418	449	426	156	117	117
①決算額（25年度は見込み）		1,172	403	371	195	53	88	117
②人件費等		5,246	7,322	7,045	10,464	11,131	6,719	
③減価償却費					3,486	4,510	3,969	
【事務分担量】（％）		65	90	90	120	175	123	
合計（①+②+③）		6,418	7,725	7,416	14,145	15,694	10,776	117
国（特定財源）								
都（特定財源）				90	202	78	58	59
その他（特定財源）								
一般財源		6,418	7,725	7,326	13,943	15,616	10,718	58
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	実施回数	22	21	22	21	21	16	10
	小中学生参加数	143	127	131	137	141	141	70

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般需用費	消耗品購入	34	消耗品購入	70	消耗品購入	81
	役務費	ボランティア保険料	19	ボランティア保険料	18	ボランティア保険料	36
	備品購入費	備品購入	0				

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
指標	① 参加小中学校数	小 8校 中 7校	小 8校 中 5校	小 7校 中 3校	小 6校 中 4校	小 6校 中 4校	25年度で実施できるひろば館は3館
	② 参加親子(組)	512組 1122人	472組 994人	384組 1129人	300組 600人	300組 600人	小中学生が参加する乳幼児タイム 参加親子
	③ 実施回数	21回	21回	16回	10回	10回	ひろば館19年度5館 20～23年度4館 24年度以降ひろば館3館(ふれあい館2館)

（問題点・課題）	今後の課題 ・ふれあい館整備にともない、「ひろば館」から「ふれあい館」での事業展開が必要。地域振興課との事業調整・連携が必須である。 ・各ふれあい館での事業実施により、援助、指導できる職員の育成と基本プログラムの作成が必要。 ・学校との連携を図り、年間を通しての企画が必要である。（継続的な交流により、乳幼児の成長を見守る。） ・小学生参加の検証が必要である。
	実施状況 （実施 10 区 未実施 12 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	ひろば館3館で事業実施を行う。	ひろば館が主導し、ふれあい館との連携を図り、事業実施の拡大を進める。
②	小中学生への事前案内、募集活動を行う。 乳幼児事業との調整により参加親子を確保する。	小中学生と乳幼児親子との交流を継続し、交流事業を定着させる。
③	「ふれあい館」での事業取組が必要なため、基本プログラムの作成と指導員育成に取り組む。	事業プログラムを基にマニュアルの作成を行っていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
推進	推進	小中学生に子育てを体験させる意味で優先度が高い。

状況（要質問）	
---------	--

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	下田臨海学園		部課名	教育委員会事務局学務課	課長名	佐藤
			担当者名	野澤	内線	3331
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	管理費（01-01-01） 給食賄（01-01-02） 運営費（01-01-03） 緊急改修（01-01-04）					
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業					
開始年度	● 昭和 ○ 平成 43 年度		根拠	荒川区立夏期学園条例		
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準			計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市〔Ⅱ〕				
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成〔04〕				
	施策	体験学習等の推進〔04-03〕				
目的	区立小学校の児童が、日頃学校で経験することのできない自然豊かな海辺で規則正しく生活しながら、伊豆地方の地形、産業、海辺の動植物等の観察及び学習並びに水泳を中心とした心身の鍛練を行うことにより、体力向上を図るとともに、豊かな情操を養うことを目的とする。					
対象者等	小学校5年生 ※5年生の児童数の少ない学校は4・5年生合同参加（4、5年合同実施校は、二つのグループに分け、清里高原学園と交互に実施。①二峡、二日、尾久宮前 ②二瑞、六瑞、三峡、九峡、一日、六日）					
内容	■学校の夏季休業中、2泊3日で下田臨海学園に宿泊し、外浦海岸海水浴場で水泳を行うほか、海辺での自然観察、磯遊び、レクリエーション等を行う。 ■小規模校が隔年参加のため、「21校参加の年度」と「18校参加の年度」があり開設期間が異なる。					
経過	昭和43年 下田市から旧柿崎小学校の施設を買い取り、「下田臨海学園」を開設。当時は中学校のみ利用 昭和48年 小中学校合同利用開始 昭和63年 施設を改築 平成10年 利用対象を小学校のみに変更 平成20年 管理業務及び遊泳監視業務の一部を委託化					
必要性	夏季休業中の実施であるため児童は任意参加だが、例年9割以上が参加。児童参加率は高く、各学校の取組みも積極的であり、事業の必要性は高い。					
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 ○ 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員） 夏期学園開設期間中は、教育委員会事務局職員が交代で常駐。遊泳監視員は、各学校の教諭から希望者を募り編成。なお、平成20年度から5人枠のうち3人（19年度までアルバイト）を委託化した（21年度からは6人枠のうち4人を委託）。常駐看護師、給食賄は、業務委託により実施。19年度末で住み込みの管理人が退任したため、管理業務を20年度から委託化した。					

予 算・決 算 額 等 の 推 移	(単位：千円)							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	予算額	41,063	59,482	137,595	56,569	44,591	42,425	78,164
	①決算額（25年度は見込み）	34,880	54,337	125,576	51,353	35,211	34,159	78,164
	②人件費等	6,405	4,235	4,072	3,488	4,235	2,891	
	③減価償却費				1,162	1,555	1,129	
	【事務分担量】（%）	75	50	50	40	50	35	
	合計（①+②+③）	41,285	58,572	129,648	56,003	41,001	38,179	78,164
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）	2,260	2,218	2,723	10,485	2,696	2,458	2,956
	一般財源	39,025	56,354	126,925	45,518	38,305	35,721	75,208
実 績 の 推 移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	参加学校数	21	17	21	18	22	18	21
	参加児童数	1,312	1,102	1,275	1,177	1,303	1,196	1,443

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	職員旅費	事務従事	466	事務従事	435	事務従事	550
	特別旅費	児童引率	400	児童引率	0	児童引率	3,348
	光熱水費	電気・水道・ガス等	4,510	電気・水道・ガス等	4,784	電気・水道・ガス等	5,044
	一般需用費	管理用諸経費	1,437	一般需用費	1,999	一般需用費	2,195
	役務費	清掃手数料・電話料	694	清掃手数料・電話料	726	清掃手数料・電話料	794
	委託料	給食業務、設備保守	19,609	給食業務、設備保守	19,027	給食業務、設備保守	23,375
	使用料及び賃料	温泉使用料等	2,771	温泉使用料等	2,584	温泉使用料等	3,209
	備品購入費	食洗機等	1,297	冷凍冷蔵庫等	899	牛乳保冷库等	0
	負担金補助及び交付金	交通費補助金	4,026	交通費補助金	3,705	交通費補助金	4,530
	工事請負費	工事請負費	0	工事請負費	0	工事請負費	35,119

指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
	①	児童 1 人当たりコスト（円）	38, 673	29, 398	29, 867	52, 119	—	歳出決算額（一般財源）／児童数
	②							
	③							

（問題点・課題）	・昭和63年の改築以来、施設の老朽化と設備の経年劣化が進んでおり、計画的な修繕や更新が必要である。 ・管理運営等業務を委託後も光熱水費支払や設備等の保守委託を区が行い、夏期の開設中は区職員を派遣しているなど、業務の非効率が生じている。
他区の実施状況	（実施 20 区 未実施 2 区） 未実施2区の内訳 ①小・中学校とも夏期施設未実施→1区（杉並区） ②小学校の夏期施設なし→1区（練馬区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成25年度以降に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	給排水設備の老朽化に伴う改修工事を行う。	給排水設備の他、廊下や浴室の改修工事を行う。
②	管理運営等委託業務の契約内容見直しについて検討する。	25年度の契約内容見直しを受けて、新たな課題等があれば引き続き検討を行う。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
推進	推進	水泳を中心とした心身の鍛錬は学校では体験できないものであり、優先度は高い。

議会議決（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	清里高原学園	部課名	教育委員会事務局学務課	課長名	佐藤
		担当者名	筒井	内線	3333
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	給食賄（01-02-01）参加児童交通費（01-02-02）運営費（01-02-03）				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	● 昭和 ○ 平成	58 年度	根拠	荒川区立夏期学園条例、荒川区立夏期学園参加費用取扱要綱	
終期設定	○ 有 ● 無	年度	法令等		
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市〔Ⅱ〕			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習の形成〔04〕			
	施策	体験学習等の推進〔04-03〕			
目的	豊かな自然の中での生活を経験することにより、自然や動植物を愛する心を養い、現地の地理や歴史に親しんで、理科及び社会科の学習の向上を図る。団体行動やレクリエーションをとおして、相互の友情を深め、他人を尊重する精神を培うとともに、社会生活における規律を学びとる。				
対象者等	小学校4年生 ※4年生の児童数の少ない学校は4・5年生合同参加 （4、5年合同実施校は、二つのグループに分け、下田臨海学園と交互に実施。①二峡、二日、尾久宮前 ②二瑞、六瑞、三峡、九峡、一日、六日）				
内容	◆ 学校の夏季休業中、2泊3日で清里高原学園に宿泊し、野外活動・集団体験活動を行う。 ◆ 清里周辺には、自然や動物、昆虫をテーマにした施設があり、学校はこうした施設を見学するほか、レタスや桃の収穫体験等を行っている。また、ハイキングコースを歩いたり、現地施設のそばで川遊びを行ったりしている。夜はキャンプファイヤーや花火、レク活動を行っている。 ◆ 毎年度、実施要項を定めるとともに、実施説明会を開催。また6月中旬には、安全確認、適切な指導を目的に、担当校長と各校の担当教員、学務課職員により実地踏査を行い、現地施設や見学場所の状況、ハイキングコースの状況等を確認している。				
経過	小学校の林間学園は、昭和40年度から昭和55年度まで、区立那須高原荘にて実施。しかし、那須高原荘が区民保養所になることとなり、山梨県の清里高原に新たに施設を設置することとなる。昭和56年6月、建築工事に着手、昭和57年に12月に竣工。昭和58年4月に「清里高原少年自然の家」が開設となった。なお、昭和56、57年度は、那須山水閣において林間学園を実施した。				
必要性	自然の中での野外活動、集団体験活動が子ども達に不足していると言われて久しい中、これらを行うことができる事業として、事業の価値はますます高まっている。				
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 ○ 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員） ◆ 各学校が事業実施。開設・閉設時は、学務課職員が現地に赴き、調整を行う。期間中は、施設の管理者が補助。 ◆ 現地の常駐看護師は、平成16年度から「看護業務委託」の形となっている。				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	予算額	16,612	20,713	19,946	24,301	19,097	21,069	19,538
	①決算額（25年度は見込み）	14,191	17,972	16,573	19,841	14,477	17,634	19,538
	②人件費等	1,708	1,694	1,629	1,308	1,694	2,065	
	③減価償却費				436	622	807	
	【事務分担量】（％）	20	20	20	15	20	25	
	合計（①+②+③）	15,899	19,666	18,202	21,585	16,793	20,506	19,538
実績の推移	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）	2,259	2,455	2,348	2,744	2,696	2,753	2,650
	一般財源	13,640	17,211	15,854	18,841	14,097	17,753	16,888
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	参加校数	17	21	17	22	18	21	18
	参加児童数（25年度は見込み）	1,097	1,228	1,177	1,375	1,170	1,453	1,325

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	使用料及び賃貸料	バス、施設使用料ほか	13,738	バス、施設使用料ほか	16,869	バス、施設使用料ほか	18,113
	職員旅費	実地踏査、開設・閉設	76	実地踏査、開設・閉設	63	実地踏査、開設・閉設	91
	特別旅費	実地踏査、児童引率	66	実地踏査、児童引率	7	実地踏査、児童引率	542
	一般需用費	しおり経費	73	しおり経費	89	しおり経費	90
	役務費	応急治療費	5	応急治療費	9	応急治療費	40
	委託料	現地看護業務	518	現地看護業務	597	現地看護業務	662

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
①	児童1人当たりコスト（円）	13,703	12,049	12,218	12,746	12,656	歳出決算額（一般財源）／参加児童数
②							
③							

（問題点・課題）	・24年度は、ウォーキングコースに一部通行止めの箇所があった。コースによっては険しい箇所を歩くこともあるので、安全性を確認し、適宜必要な対応をとる必要がある。
他区の実施状況	（実施 17 区 未実施 5 区） 未実施5区の内訳 ①小・中学校とも夏期施設未実施→1区（杉並区） ②小学校の夏期施設なし→1区（練馬区） ③小学校は臨海学園のみ実施→3区（千代田区、中央区、中野区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成25年度以降に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	登山コース、ウォーキングコースについて、実地踏査により現地の状況を把握し、安全性を確認する。	引き続き登山コース、ウォーキングコースについて、実地踏査により現地の状況を把握し、安全性を確認する。
②		
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
推進	推進	高原の自然や天体観測など都会では体験できないものである。移動教室と役割分担を図りつつ推進していく。

議会議決（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名		地域少年育成活動補助		部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	北村
				担当者名	坂井・宮前	内線	3355, 3352
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）			地域少年育成活動補助（01-08-01）				
事務事業の種類		○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度）			○ 建設事業 ● それ以外の継続事業		
開始年度		● 昭和 ○ 平成 41 年度		根拠	荒川区補助金交付規則		
終期設定		○ 有 ● 無 年度		法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱		
実施基準		○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準			計画区分	○ 計画 ● 非計画	
行政評価事業体系		分野	子育て教育都市Ⅱ				
		政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]				
		施策	体験学習等の推進[04-03]				
目的		【少年キャンプ・子ども会大会】集団生活、野外生活を通じて、子どもたちが協調性、生活能力、チームワークを学ぶ機会を提供し、異年齢の子どもたちとのグループ活動を通じて、リーダーの養成を図る事業を支援する。 【わんぱく相撲・鉄人レースイン汐入】子どもたちの心の鍛錬と健康の増進を図る事業を支援する。					
対象者等		【少年キャンプ・子ども会大会】荒川区少年団体指導者連絡会（以下「荒少連」と略す） 【わんぱく相撲・鉄人レースイン汐入】区内在住・在学の小学生					
内容		○少年キャンプ（チャレンジキャンプ） 小学3年生～中学3年生「チャレンジ共和国」参加者を優先。 2～3回の事前準備会において、班での役割等を決定する。 平成24年度：8月17日（金）～19日（日）・朝霧野外活動センターキャンプ場 平成25年度：8月9日（金）～11日（日）・浜石野外センター ○子ども会大会 子ども会に加入している小学生、少年キャンプ参加者、各子ども会や少年キャンプ参加者を対象に荒少連が直接募集する。 平成24年度：11月25日（日）・東日暮里地区ウォークラリー 平成25年度：11月24日（日）・場所未定 ○わんぱく相撲荒川区大会 小学生を対象とした相撲大会であり、荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱により、事業費の一部を補助。 会場：荒川総合スポーツセンター ○鉄人レースイン汐入 小学生を対象としたアクアスロン大会であり、荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱により、事業費の一部を補助。 会場：汐入東小学校及び第三中学校、都立汐入公園					
経過		【少年キャンプ・子ども会大会】 ・昭和38年度～ 子ども会大会を実施 ・昭和41年度～ 少年団体指導者（リーダーキャンプ）研修会 ・昭和62年度～ 「チャレンジキャンプ」としてリーダーキャンプと同時に実施 ・平成12年度～ 荒少連への補助事業としてキャンプと子ども会大会を実施					
必要性		子どもたちが野外活動やウォークラリー、トライアスロン、相撲等を通して、自主性や協調性、社会性を養うことは、心身の健全育成に大きく寄与するものであり、必要性は高い。					
実施方法		（1直営） （直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員） 少年キャンプ 主催：荒少連 後援：荒川区教育委員会 協力：青少年委員連絡会 子ども会大会 主催：荒少連 後援：荒川区教育委員会 協力：青少年委員連絡会 わんぱく相撲 主催：わんぱく相撲荒川区大会実行委員会 / 実行委員会に対する補助金の支出 鉄人レースイン汐入 主催：鉄人レースイン汐入実行委員会 / 実行委員会に対する補助金の支出					

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	予算額	1,648	1,716	2,245	1,745	1,818	1,818	1,818
	①決算額（25年度は見込み）	1,647	1,714	2,236	1,739	1,814	1,811	1,818
	②人件費等	1,964	1,017	896	1,587	2,390	1,900	
	③減価償却費				726	1,089	742	
	【事務分担当】（％）				25	35	23	
	合計（①＋②＋③）	3,611	2,731	3,132	4,052	5,293	4,453	1,818
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
その他（特定財源）								
一般財源	3,611	2,731	3,132	4,052	5,293	4,453	1,818	
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	キャンプ参加者（児童・生徒）	63	71	77	70	64	88	90
	子ども会大会参加者（児童・生徒・育成者）	159	169	195	233	173	164	250
	わんぱく相撲荒川区大会	259	327	383	467	513	530	526
	鉄人レースイン汐入		313	345	379	329	335	350

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	旅費	職員旅費	11	職員旅費	9	職員旅費	13
	負担金補助・交付金	少年キャンプ事業補助	1,230	少年キャンプ事業補助	1,230	少年キャンプ事業補助	1,230
		職員参加負担金	18	職員参加負担金	18	職員参加負担金	18
		子ども会大会事業補助	50	子ども会大会事業補助	50	子ども会大会事業補助	50
		わんぱく相撲事業補助	370	わんぱく相撲事業補助	370	わんぱく相撲事業補助	370
		鉄人レースイン汐入事業補助	135	鉄人レースイン汐入事業補助	135	鉄人レースイン汐入事業補助	135

指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
①	キャンプ参加者数		105	105	132	150	150	運営者を含む
②	子ども会大会参加者数		233	173	164	250	250	
③								

（問題点・課題）	【少年キャンプ】 準備会を含めた少年キャンプの実施時期である7月～8月は、キャンプと同様に小中学生が対象である自然まるかじり体験塾、ワールドスクール等と重なることが多く、実施時期の調整が難しい。
他区の状況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	【少年キャンプ】 各学校や他部署の行事予定を把握し、なるべく日程が重ならない時期にキャンプを実施できるよう、調整する。	25年度の対応を継続して実施する。
②		
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
継続	継続	子どもたちの健全育成に必要な体験活動を推進するために、補助を継続する。

議会議決（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	少年教室	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	北村
		担当者名	坂井	内線	3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）		少年教室（01-08-02）			
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度）		○ 建設事業 ● それ以外の継続事業		
開始年度	● 昭和 ○ 平成 59 年度		根拠	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱	
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等	荒川区小学校合宿通学事業補助金交付要綱	
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	○ 計画 ● 非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市Ⅱ			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	体験学習等の推進[04-03]			
目的	日頃自ら物を作ったり、汗をかくという直接体験が不足しがちな現代の子どもたちを対象に学校や家庭では体験できない様々な体験教室を開催し、発見の喜びや「自主性・創造性」を伸ばす機会を提供する。 また、異年齢交流や学校以外の友達をつくり、地域での自発的な活動の基礎とする。				
対象者等	○チャレンジ共和国：小学3年生～中学生 ○少年少女体験教室：小学生 ○中学生ロボコン：中学1～2年生 ○合宿通学：実施小学校の4～6年生 ○中高生リーダー養成講座：中学生～高校生				
内容	○チャレンジ共和国：荒川区少年団体指導者連絡会や青少年委員連絡会との企画会議で内容を決定。 5～6月の計4～5回実施：エンジョイコース定員150名、マスターコース定員20名 ・平成24年度…レク、染物体験、みそ汁作り、食器作り、プリン作り、飯ごうご飯、科学実験 ・平成25年度…工作、レク、スープ作り、パン作り、巨大シャボン玉作り、万華鏡作り ○少年少女体験教室：都立産業技術高専や荒川工業高校の協力により実施。 ・でっかい紙ヒコーキを作って飛ばそう…（定員15組30名） ・荒工おもしろ体験教室…コップ、電子工作（ボイスレコーダー）、うちわ、3コース各定員30名 ○中学生ロボコン：ロボット製作・競技会。定員50名 準備会…12月～1月の全6回（最終日高専大会）、北区大会…2月、産業展大会…3月、エキシビジョンマッチ大会…4月 ○合宿通学：汐入小、汐入東小、峡田小、二峡小、三峡小、七峡小、尾久小、尾久宮前小、二日小の9校が実施 ○中高生リーダー養成講座：イベントの企画・運営、レクの実習等を行う				
経過	○少年教室（チャレンジ共和国）：昭和59年度～ ○少年少女体験教室：平成5年度～ ・荒工おもしろ体験教室：平成12年度～ ・ペットボトルロケット（高専おもしろ教室）：平成13年度～23年度 ・でっかい紙ヒコーキ（高専おもしろ教室）：平成24年度～ ○中学生ロボコン：平成13年度～ ○合宿通学：平成11年度に試行的に実施、平成13年度から実行委員会形式で実施 ○中高生リーダー養成講座：平成20年度から中高生リーダー研修として実施し、平成23年度に改称				
必要性	集団でさまざまな体験を行うことが不足し、協調性に欠ける子どもが増えている中、子どもの「体験」する機会を増やし、興味や関心を広げるとともに協調性を養うために必要である。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員） ○チャレンジ共和国…共催：荒川区教育委員会、荒川区少年団体指導者連絡会 ○荒工おもしろ体験教室…共催：荒川区教育委員会、都立荒川工業高等学校 ○でっかい紙ヒコーキ…主催：荒川区教育委員会、協力：都立産業技術高等専門学校 ○中学生ロボコン…共催：荒川区教育委員会、北区教育委員会、自然科学フォーラム、協力：都立産業技術高等専門学校 ○合宿通学…主催：各合宿通学実行委員会 ○中高生リーダー養成講座…共催：荒川区教育委員会、荒川区少年団体指導者連絡会				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算額		1,334	1,492	1,695	1,767	1,660	1,678	1,609
①決算額（25年度は見込み）		1,043	1,216	959	907	1,222	1,249	1,609
②人件費等		5,295	6,522	7,006	6,175	9,327	8,330	
③減価償却費					4,038	5,007	6,325	
【事務分担量】（%）					139	161	196	
合計（①+②+③）		6,338	7,738	7,965	11,120	15,556	15,904	1,609
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源		6,338	7,738	7,965	11,120	15,556	15,904	1,609
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	チャレンジ共和国参加者数	129	191	174	176	226	233	184
	少年少女体験教室参加者数	121	145	153	106	136	113	100
	中学生ロボコン参加者数	39	36	43	48	42	41	50
	合宿通学（参加者数／実施校）	180 / 8	175 / 8	160 / 8	184 / 9	184 / 9	164 / 9	185 / 9
	中高生リーダー養成講座参加者数		15	13	13	13	9	20

事務事業分析シート（平成25年度）

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	謝礼	474	謝礼	445	謝礼	520
	職員旅費	中高生宿泊研修日当	0	中高生宿泊研修日当	0	中高生宿泊研修日当	0
	一般需用費	消耗品費	190	消耗品費	235	消耗品費	281
	使用料	中高生宿泊研修会場使用料	0	中高生宿泊研修会場使用料	0	中高生宿泊研修会場使用料	8
	負担金補助・交付金	合宿通学事業補助金	558	合宿通学事業補助金	569	合宿通学事業補助金	800

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
標	① チャレンジ共和国（参加者数）	176	221	240	184	180	
	② ペットボトルロケット・荒工おもしろ体験教室・中学生ロボコン（参加者数）	154	186	150	150	180	
	③ 合宿通学（名／校）	184/9	167/9	185/9	185/9	220/11	

（問題点・課題）	①荒工おもしろ体験教室においては、参加希望者数が定員数を上回るときがあり、申し込みをしても参加できない子どもが出ている。 ②22年度から合宿通学の実施校に汐入東小が加わり9校になった。しかし、宿泊会場となる場所が少ないことや宿泊ボランティアを確保出来ないなどの理由があり、実施する学校が増えない。
	他区の実況 （実施 22 区 未実施 区） 合宿通学は2区（江東区、台東区）

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	荒工おもしろ体験教室においては、申し込みをしても参加できない子どもが出ないように、複数回実施する等により定員数を増やす工夫が必要。	25年度の改善内容を継続して推進し、定員数の増加を積極的に目指す。
②	合宿通学の中で懸案となっているボランティアや宿泊場所の確保について、荒少連のシニアリーダー等に依頼したり、町会会館以外の宿泊施設を検討する。	25年度の改善内容を継続して推進し、ボランティアや宿泊場所を確保していく。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
推進	推進	子どもに多様な体験をさせる事業であり、優先度が高い。

議会議決 （要旨）	
--------------	--

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	ふれあい教育の推進		部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	武井
			担当者名	佐藤・石井・田口	内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	ふれあい教育の推進（01-13-01）					
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業					
開始年度	○ 昭和 ● 平成 7 年度		根拠	学習指導要領に準拠		
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等	荒川区街の先生教室実施要綱		
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準			計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市〔Ⅱ〕				
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成〔04〕				
	施策	体験学習等の推進〔04-03〕				
目的	21世紀を心豊かにたくましく生きる子供たちを育成するためには、多くの人々とふれあう豊かな体験活動が必要である。 そこで、次代の荒川区を担う子供たちに、地域の特性を生かしたボランティア活動や地域体験学習等を取り入れた学校教育を推進し、郷土愛や福祉の精神の涵養などを図るとともに、豊かな心を育成する。					
対象者等	ふれあい教育……………区立全幼稚園、小・中学校 小・中学校地域社会体験教室……………区立全小・中学校（地域の事業所等での職業体験、ボランティア体験） 街の先生教室……………区立全小・中学校（地域人材による学校への出前授業）					
内容	1. 「ふれあい教育の推進月間」（区立全幼稚園、小・中学校） 年間2回（6月、11月）を「ふれあい教育」の推進月間とし、以下のような活動を推進する。 ・地域における福祉施設や高齢者施設、異校種等での奉仕活動 ・高齢者、障害者、心障学級、幼児、外国人、地域の方などとの交流 2. 地域社会体験教室（平成14年度～ 小中全校実施、平成19年度～ 小全校実施、中学校は希望校のみ実施） 地域の企業・商店等での職業体験や福祉施設等でのボランティア体験を通して地域を愛する心や思いやりの心を育む 3. 街の先生教室（区立小中学校の全学級を対象） 専門的な技術や、優れた能力をもつ地域の方々を指導者として迎え、子供たちの授業に対する意欲を高めるとともに地域に目を向け、地域に対する誇りを培う。 ・各学級あたり年間1～2回程度 4. スクールサポート ・教育活動への支援…図書室ボランティア、学校公開週間の安全管理補助員派遣など。 5. 鮭の里親事業 ・山形県鮭川村との連携により鮭の稚魚の育成、放流を尾久宮前・第二日暮里小学校で実施。					
経過	平成7年度から順次実施。					
必要性	次代を担う荒川区の子ども達が心豊かにたくましく生きるためには、多くの人々とふれあうことが不可欠					
実施方法	（1直営） （直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員）					

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算額		2,977	3,073	3,113	3,270	2,754	2,746	3,359
①決算額（25年度は見込み）		2,145	1,982	1,840	1,791	2,013	2,049	3,359
②人件費等		427	847	1,628	436	423	519	
③減価償却費					145	156	420	
【事務分担量】（％）		5	10	20	5	5	13	
合計（①+②+③）		2,572	2,829	3,468	2,372	2,592	2,988	3,359
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源		2,572	2,829	3,468	2,372	2,592	2,988	3,359
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	ふれあい教育展示会	2回10日間	2回10日間	2回10日間	2回10日間	2回10日間	2回10日間	2回10日間
	地域社会体験教室	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施
	街の先生教室延べ実施回数	254回	252回	225回	230回	229回	257回	313回

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	街の先生教室講師謝金	1,145	街の先生教室講師謝金	1,285	街の先生教室講師謝金	1,568
	一般需用費	消耗品費（令達・こども園）	8	消耗品費（令達・こども園）	0	消耗品費（令達・こども園）	8
		消耗品費（令達・幼）	63	消耗品費（令達・幼）	43	消耗品費（令達・幼）	64
		消耗品費（令達・小）	659	消耗品費（令達・小）	622	消耗品費（令達・小）	768
		消耗品費（令達・中）	138	消耗品費（令達・中）	99	消耗品費（令達・中）	220
						鮭の里親事業用	70
	役務費					鮭の里親事業用（郵便料ほか）	214
	委託料					鮭の里親事業用（運転手代）	39
	使用料及び賃借料					鮭の里親事業用（バス、施設）	408

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 （見込み）	目標値 （26年度）	
①	中学校ボランティア体験の向上	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	実施数／学校数
	② 小学校職業体験の向上	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	実施数／学校数
	③						

（問題点・課題）	・ボランティア活動の視点を明確にし、多様な体験活動となるような工夫・改善が望まれる。 ・荒川区社会福祉協議会、区民生活部、産業経済部、子育て支援部との連携を図り、本事業の充実に努めていくこと。 ・各校からの掲示物をスポーツセンター以外の場所に掲示することも検討する。
他区の実施状況	（実施 18 区 未実施 4 区）

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	キャリア教育を目指しすべての取組が融合するように関連付けて実施する。	より実践的な職業観、人生観を育成する取組を実施する。
②		
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
継続	継続	地域と一体となった教育の充実を目指す。

状況（要質問）	平成10年度 第2回定例会「学校教育にボランティア活動を導入することについて」
---------	---

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	体験学習推進事業（学校農園、体験型職業教育の推進）	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	武井
		担当者名	佐藤・石井・石野	内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	学校農園（01-14-01）、体験型職業教育の推進（01-14-02）				
事務事業の種類	○新規事業（○25年度 ○24年度） ○建設事業 ●それ以外の継続事業				
開始年度	○昭和 ●平成 12 年度		根拠	学校指導要領に準拠	
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	荒川区学校農園実施要綱	
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画 ○非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[Ⅱ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	体験学習等の推進[04-03]			
目的	[学校農園] 体験学習の重要性は、中央教育審議会答申をはじめ各所で指摘されており、自ら課題をもち、自ら考え、自ら解決するなどの「生きる力」を育成するためには、体験学習の機会を拡充することが求められている。このような折、足立区に在住する方からの申し出により農地を借用できることになったので、これを活用し自然体験、社会体験、勤労体験等の機会拡充を図る。 [体験型職業教育の推進] 現在は、小学生が地域の商店等で実際に仕事を手伝う勤労体験、中学生が企業等で職業体験をする勤労留学など、「地域社会体験活動」によって、将来の職業や進路について考えさせ、キャリア教育の推進を図っている。 勤労体験を「総合的な学習の時間」の学習単元として教育課程に位置づけ、児童・生徒一人一人が自己の生き方を考える啓発的体験として、教育活動全体の中で意図的・計画的に取り組む。				
対象者等	区立小・中学校の児童・生徒				
内容	[学校農園] ・総合的な学習等、教育課程に位置づけて実施する。 ・収穫した作物を給食の食材としたり、栽培した草花を地域の施設に寄贈するボランティア活動に生かしたりするなど、他の活動へ発展させることで豊かな人間性を育む。 ・17年度…尾久六、尾久西、三日、三峽 ・22年度…一日、三日、大門、峡田 ・18年度…三峽、尾久西、尾久六、三日 ・23年度…一日、三日、大門、峡田、尾久西 ・19年度…尾久六、三日、六日 ・24年度…一日、尾久宮前、大門、峡田、尾久西 ・20年度…三日 ・25年度…一日、尾久宮前、大門、峡田 ・21年度…一日、三日、大門 [体験型職業教育の推進] (1) 勤労体験プログラムの実施 ・平成19年度から、中学校においては、学校と幅広く企業等の協力を得て、一週間程度の集中した「勤労体験留学」を全校実施する。 (2) 勤労留学（①職業講話→②職場訪問→③勤労留学（本プログラムの中核）→④新聞作成→⑤発表会 ・授業時間や夏休み等 一週間程度集中実施（一日6時間程度）・仕事の手伝いではなく仕事そのものを体験する。 ・子どもたち自身が自己の生き方を考える。				
経過	19年度から勤労留学は、全校にて実施した。				
必要性	学校農園については、自然に親しみ、環境保全の意識を高める。体験型職業教育の推進では、働くことの価値を、体験を通して理解する。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	予算額	7,474	7,950	7,793	8,212	7,101	6,913	6,451
	①決算額（25年度は見込み）	3,603	3,373	4,855	4,945	5,069	4,952	6,451
	②人件費等	2,135	1,271	2,444	1,308	1,693	684	
	③減価償却費				436	623	484	
	【事務分担量】（％）	25	15	30	15	20	15	
	合計（①+②+③）	5,738	4,644	7,299	6,689	7,385	6,120	6,451
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	5,738	4,644	7,299	6,689	7,385	6,120	6,451
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	農園活用校	3	1	3	4	5	5	5
	勤労体験留学モデル校	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	農園指導者謝金	300	農園指導者謝金	300	農園指導者謝金	300
	一般需用費	種苗、肥料等購入	58	種苗、肥料等購入	25	種苗、肥料等購入	100
	使用料	バス借上げ	120	バス借上げ	120	バス借上げ	240
	報償費	事業所謝金	2,383	事業所謝金	2,352	事業所謝金	2,850
	一般需用費	手土産代等	1,244	手土産代等	1,193	手土産代等	1,510
	役務費	保険料	253	保険料	240	保険料	272
		細菌検査代	84	細菌検査代	123	細菌検査代	104
	委託料	細菌検査委託料			31		
	負担金補助	生徒交通費補助	600	生徒交通費補助	546	生徒交通費補助	860
	特別旅費	事業所巡回旅費（教員）	27	事業所巡回旅費（教員）	22	事業所巡回旅費（教員）	215

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
①	学校農園実施率	16.7%	20.8%	20.8%	20.8%	20.8%	実施数／小学校数
②	勤労留学実施率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	実施数／中学校数
③							

（問題点・課題）	・ 農園までの交通費が保護者負担となっている。また、現地までの交通が不便なので、子どもたちが足を運ぶ機会が少なくなってしまう。 ・ 自ら収穫することの喜びを感じることで食に関する指導の観点から、各教科等の指導内容を見直す。
他区の実施状況	（実施 22 区 未実施 0 区） 全区において1日から5日の中学生の職場体験学習を実施している。本区では平成19年度から連続5日間の実施をする。平成20年度から全校において連続5日間の実施を目指している。

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	公費負担による借り上げバスの手配を可能な回数実施する。	各校へ学校農園についてPRを行っていく。
②	勤労留学に対する区全体の協力体制をつくっていく。	勤労留学に対する区全体の協力体制を整備する。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
継続	継続	地域と連携し勤労留学を全校実施する。

議会（要質問）	H17.1定 「生きる力の育成の取り組みについて」
---------	---------------------------

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	ようこそ青年海外協力隊	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	武井
		担当者名	佐藤・日高	内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	ようこそ青年海外協力隊(01-14-03)				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	○ 昭和 ● 平成 18 年度	根拠	学習指導要領に準拠、荒川区教育委員会と独立行政法人国際協力機構広尾センター（JICA地球ひろば）との国際理解教育・開発教育に関する覚書		
終期設定	○ 有 ● 無 年度	法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市〔Ⅱ〕			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成〔04〕			
	施策	体験学習等の推進〔04-03〕			
目的	我が国とは異なる歴史や文化、人々の価値観をもつ様々な国々において、技術や知識を活かして開発途上国の国づくり、人づくりに身をもって協力してきた青年海外協力隊員の方々を学校に招き、現地での体験談とともに、子どもたちへの熱いメッセージをいただき、子どもたちの夢や希望を育もうとするものである。				
対象者等	小学校5～6年生及び中学校全学年のうち、任意の学年（学級単位）				
内容	・ 青年海外協力隊として海外で活動した経験をもつ方や、JICA職員などを講師に招き、農林水産、土木建築、教育文化、スポーツなど7部門140種の分野から、体験談を通して子どもたちの夢や希望を育む。あわせて、事前の調べ学習や事後の感想文作成等により、一層の効果の向上を図る。 ・ 実施形態は、講話または交流会とし、一回2時間程度とする。				
経過	JICA本部と実施に向けて検討を重ね、平成18年度からモデル授業を行い、全校実施となった。				
必要性	将来に向けて夢や希望をもって、これからの人生を切り拓いていく子どもを育成するために必要な事業である。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	予算額	702	702	666	711	711	684	657
	①決算額（25年度は見込み）	549	486	567	594	630	585	657
	②人件費等	427	424	407	436	0	1,239	
	③減価償却費				145	0	484	
	【事務分担量】（％）	5	5	5	5	0	15	
	合計（①+②+③）	976	910	974	1,175	630	2,308	657
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	976	910	974	1,175	630	2,308	657
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	実施校数	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施	全校実施

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	講師謝金	630	講師謝金	585	講師謝金	657

指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			22年度	23年度	24年度	25年度 （見込み）	目標値 （26年度）	
標	①	全校実施	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	実施数／小5、小6、中1クラス数
	②							
	③							

（問題点・課題）	・教育課程への位置付けを明確にし、「生き方トーク」、「街の先生教室」との違いを明確にし、児童・生徒に勤労観を醸成させる。							
他区の実況	（実施 0 区 未実施 22 区） 本区の独自の取り組みであり、他区には実践例は無い。							

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	教育委員会、JICA及び学校との連絡調整を十分に行い、講師の講演の内容とねらいを明確に示した上で実施する。	教育委員会、JICA及び学校との連絡調整を十分に行い、さらに質の高い、効果のある講演になるようにする。
②		
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
継続	継続	夢を育む事業として定着を図る。

議会議決（要旨）	
----------	--

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	清里移動教室	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	武井
		担当者名	阿部	内線	3381
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	小学校移動教室（01-01-01） 中学校移動教室（01-02-01）				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	● 昭和 ○ 平成	58 年度	根拠	移動教室（清里）実施要綱	
終期設定	○ 有 ● 無	年度	法令等		
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	○ 計画	● 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市〔Ⅱ〕			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成〔04〕			
	施策	体験学習等の推進〔04-03〕			
目的	教育課程の一環として移動教室を実施することにより、児童の自然に親しむ心を培い、自然と文化についての理解を深め、豊かな情感を養う。また、集団行動集団生活を体験させることによって、連帯感や責任感及び自主的生活態度を育成する。				
対象者等	小学校5年生、中学校1年生				
内容	【活動例】 ・ 東沢溪谷ハイキング、清泉寮及び清里駅周辺散策、飯盛山、天女山、入笠山登山、オリエンテーリング（清里少年自然の家～美し森展望台） ・ 清里周辺施設での体験活動（ほうとう作り、そば打ち、火おこし、バター作り、酪農、林業、木工作り） ・ キャンプファイヤー、飯ごう炊さん				
経過	昭和58年より実施している。				
必要性	児童・生徒の連帯感や責任感、自主的生活態度を育成するために必要。				
実施方法	（一部委託） （直営の場合 ○ 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員） 看護業務委託（24年度委託料（決算額）2,008,314円（清里分 1,004,157円），（株）ナインゲール東京本社）				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	予算額	37,607	35,943	35,463	37,485	34,489	35,303	35,975
	①決算額（25年度は見込み）	35,493	30,687	30,339	30,313	28,927	30,255	35,975
	②人件費等	915	1,335	2,363	2,581	3,359	1,896	
	③減価償却費				1,453	1,866	2,259	
	【事務分担量】（％）	25	30	50	50	60	70	
	合計（①＋②＋③）	36,408	32,022	32,702	34,347	34,152	34,410	35,975
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）	4,793	4,323	4,427	4,747	4,454	4,767	4,884
	一般財源	31,615	27,699	28,275	29,600	29,698	29,643	31,091
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	小学校 参加児童数	1,258	1,224	1,199	1,340	1,285	1,297	1,400
	バス借上げ台数	43	40	41	46	44	43	43
	中学校 参加生徒数	1,140	938	1,015	1,033	943	1,087	1,042
	バス借上げ台数	35	29	32	34	29	35	35

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予 算 ・ 決 算 の 内 訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	現地指導員謝金	288	現地指導員謝金	176	現地指導員謝金	480
	職員旅費	実地踏査、事務従事	57	実地踏査、事務従事	127	実地踏査、事務従事	1,198
	特別旅費	実地踏査、引率教員		実地踏査、引率教員		実地踏査、引率教員	
	一般需用	児童・生徒用しおり、消耗品費	518	児童・生徒用しおり・消耗品費	542	児童・生徒用しおり・消耗品費	675
	役務費	応急治療費	19	応急治療費	5	応急治療費	75
	委託料	看護業務委託	939	看護業務委託	1,004	看護業務委託	1,477
	使用料賃	児童生徒輸送用バス	16,008	児童生徒輸送用バス	16,569	児童生徒輸送用バス	19,339
	使用料賃	給食賄、施設使用料	11,093	給食賄、施設使用料	11,832	給食賄、施設使用料	12,661
	使用料賃	緊急乗用車借り上げ	6	緊急乗用車借り上げ	0	緊急乗用車借り上げ	70
	負担金補助						

指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
①	児童参加率		98.2%	99.5%	98.8%	100.0%	100.0%	参加者/在籍者（5月1日現在）
	生徒参加率		99.0%	96.0%	99.5%	100.0%	100.0%	参加者/在籍者（5月1日現在）
	③							

（問題点・課題）	雨天時の受入施設の確保や施設の老朽化対策、財政面、運営面において効果的・効率的な実施方法の確立が必要。							
	（実施 22 区 未実施 0 区）							

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	説明会や実地踏査時に、災害時の安全対策や現地情報及び実施方法について指導室から担当教員への周知を徹底することにより、指導室～学校間及び学校内部の教員間において情報を共有化し、連携を図る態勢を確立する。	情報の共有により、移動教室実施における類型化されたトラブルを防止するとともに、連携を図ることによりスムーズな移動教室の実施方法を確立する。
②	施設内の老朽箇所、危険箇所の場所及び程度を把握し、児童・生徒に危険が及ばないよう応急処置を行うとともに、施設の管理運営担当主管課である社会教育課に随時報告する。	限られた財源の中で、社会教育課と連携して小破修繕の優先順位をつけ、数年単位での修繕計画をたてるとともに、大規模改修等の計画についても検討していく。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
継続	継続	学校の創意工夫を支援し充実させる。

況議 （要 旨）	
----------------	--

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	下田移動教室		部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	武井
			担当者名	石井	内線	3382
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	小学校移動教室（01-01-02） 中学校移動教室（01-02-02）					
事務事業の種類	☐ 新規事業（ ☐ 25年度 ☐ 24年度） ☐ 建設事業 ☒ それ以外の継続事業					
開始年度	☒ 昭和 ☐ 平成 58 年度		根拠	移動教室実施要綱（下田）		
終期設定	☐ 有 ☒ 無 年度		法令等			
実施基準	☐ 法令基準内 ☐ 都基準内 ☒ 区独自基準			計画区分	☐ 計画 ☒ 非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市〔Ⅱ〕				
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成〔04〕				
	施策	体験学習等の推進〔04-03〕				
目的	教育課程の一環として移動教室を実施することにより、児童・生徒の自然に親しむ心を培い、自然と文化についての理解を深め、豊かな情感を養う。また、集団行動、集団生活を体験させることによって、連帯感や責任感及び自主的な生活態度を育成する。					
対象者等	小学校6年生、中学校2年生					
内容	各小中学校が教育内容に工夫を凝らして実施している。 【コース例】 ・須崎～爪木崎ハイキング ・下田市内散策 ・寝姿山登山（ロープウェー） ・河津七滝巡り ・外浦、爪木崎、恵比寿島、まどが浜、田牛サンドスキー場等での磯生物観察、釣り、レクリエーション等 ・あじの開き、海草押し葉、シーカヤック等の体験学習 ・現地指導員学習会 ・魚市場見学 ・施設見学等（下田海中水族館、小田原城址公園、柿田川湧水、修善寺サイクリストセンター、生命の星・地球博物館） 【移動教室運営経費】 ・賄費（朝・昼・夕）・・・給食業務委託 ・交通費（小・バス3日間借り上げ、中・往路<1日目>と復路<3日目>輸送） ・現地指導員謝金 ・看護業務委託（平成16年度から委託契約） ・職員旅費、引率者旅費 ・消耗品等購入費 ・応急治療費、緊急自動車					
経過	昭和58年より実施している。					
必要性	児童・生徒の自然に親しむ心を培い自然と文化についての理解を深め、豊かな情感を養うため、また、集団生活を通して連帯感や責任感及び自主的な生活態度を育成するため必要。					
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 ☐ 常勤 ☐ 非常勤 ☐ 臨時職員） ・給食業務委託（24年度委託料（決算額） 14,244,021円、（株）クックランド） ・看護業務委託（24年度委託料（決算額） 1,004,157円、（株）ナイチンゲール東京本社）					

予算・決算額等の推移	(単位：千円)								
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
	予算額	31,305	37,850	38,878	40,794	42,238	38,823	40,980	
	①決算額（25年度は見込み）	29,650	31,600	31,717	33,688	36,135	33,913	40,980	
	②人件費等	6,463	5,600	6,275	7,067	5,178	1,896		
	③減価償却費				6,101	5,909	2,259		
	【事務分担当量】（％）	190	180	210	210	190	70		
	合計（①＋②＋③）	36,113	37,200	37,992	46,856	47,222	38,068	40,980	
	国（特定財源）								
	都（特定財源）								
実績の推移	その他（特定財源）	3,123	3,549	4,309	4,485	4,718	4,533	4,906	
	一般財源	32,990	33,651	33,683	42,371	42,504	33,535	36,074	
	事項名		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	小学校	参加児童数	1,131	1,261	1,226	1,194	1,320	1,305	1,316
		バス借上げ台数	40	43	42	42	45	44	44
	中学校	参加生徒数	783	992	930	1,048	1,042	1,172	1,137
		バス借上げ台数	52	56	51	65	70	62	62

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	現地指導員謝金	207	現地指導員謝金	216	現地指導員謝金	261
	職員旅費	実地踏査、事務従事	579	実地踏査、事務従事	454	実地踏査、事務従事	268
	特別旅費	実地踏査、引率教員		実地踏査、引率教員		実地踏査、引率教員	1,838
	一般需用費	しおり、生活用品等購入	1,638	しおり、生活用品等購入	1,408	しおり、生活用品等購入	2,098
		光熱水費	2				
	役務費	応急治療費、畳乾燥	473	応急治療費、畳乾燥	451	応急治療費、畳乾燥	509
	委託料	看護業務委託	1,148	看護業務委託	1,005	看護業務委託	1,336
	委託料	給食賄	14,862	給食賄	14,244	給食賄	15,264
	使用料賃借料	児童生徒輸送用バス	14,760	児童生徒輸送用バス	14,007	児童生徒輸送用バス	16,788
	使用料賃借料	実踏バス、寝具一式借上げ	2,327	実踏バス、寝具一式借上げ	2,128	実踏バス、寝具一式借上げ	2,618
	備品購入費	プロジェクター購入費	140				

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
①	児童参加率	98.0%	97.9%	98.9%	100.0%	100.0%	参加者／在籍者（5月1日現在）
	生徒参加率	93.9%	99.6%	98.1%	100.0%	100.0%	参加者／在籍者（5月1日現在）

（問題点・課題）	雨天時の受入れ施設の確保や施設の老朽化対策等、財政面、運営面において効果的・効率的な実施方法の確立が必要。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区）

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	説明会や実地踏査時に、災害時の安全対策や現地情報及び実施方法について指導室から担当教員への周知を徹底することにより、指導室～学校間及び学校内部の教員間において情報を共有化し、連携を図る態勢を確立する。	情報の共有により、移動教室実施における類型化されたトラブルを防止するとともに、連携を図ることによりスムーズな移動教室の実施方法を確立する。
②	施設内の老朽箇所、危険箇所の場所及び程度を把握し、児童・生徒に危険が及ばないよう応急処置を行うとともに、施設の管理運営担当主管課である学務課に随時報告する。	限られた財源の中で、学務課と連携して小破修繕の優先順位をつけ、数年単位での修繕計画をたてるとともに、大規模改修等の計画についても検討していく。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
継続	継続	学校の創意工夫を支援し充実させる。

議（要旨）	
-------	--